

## タイムスタディ関係資料



## 平成20年度社会的養護における施設ケアに関する 実態調査(タイムスタディ調査)概況

### 1. タイムスタディ調査について

#### ①調査対象施設数

- 児童養護施設 21か所
- 乳児院 4か所(平成19年度調査と合わせて6か所)
- 情緒障害児短期治療施設 3か所
- 児童自立支援施設 2か所
- 母子生活支援施設 4か所

#### ②調査対象施設の選定条件等

調査対象施設の選定については、施設種別ごとに職員配置等の条件で抽出を行ったリストの中から、各施設協議会より推薦を受けた施設のうち、調査の協力が得られた施設とした。

#### ○児童養護施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
手厚い配置	大舎	1ケア単位 ※	11か所	198人
	小舎・小規模	2ケア単位	7か所	113人
平均的な配置	大舎・中舎	1ケア単位 ※	3か所	52人
計			21か所	361人

#### ○乳児院

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
手厚い配置	小舎・小規模	2ケア単位	2か所	24人
	小舎・小規模以外	1ケア単位	2か所	31人
計			4か所	55人

#### ○情緒障害児短期治療施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
入所率高い(80%以上)	大舎	1ケア単位 ※	1か所	9人
手厚い配置	小舎・小規模	2ケア単位	2か所	29人
計			3か所	38人

#### ○児童自立支援施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
入所率高い(60%以上)	夫婦制	1ケア単位	1か所	12人
手厚い配置	交代制	1ケア単位(寮舎)	1か所	12人
計			2か所	24人

#### ○母子生活支援施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	世帯数	総児童数
入所率高い(70%以上)	本園のみ	入所世帯すべて	2か所	38世帯	71人
手厚い配置	本園及び 小規模分園	入所世帯すべて	2か所	74世帯	135人
計			4か所	112世帯	206人

※ 大舎の場合は、子どもの生活の単位では計測が難しいことから、ケアを行う職員・対象児童のグループ(ケア単位)を特定し、その単位を調査対象とした。

### ③調査の概要

本調査は、「施設職員の業務量調査(1分間タイムスタディ調査)」と「入所児童の状態調査(アセスメント調査・突発事象等調査)」の二つの調査により構成される。

#### 1)施設職員の業務量調査(1分間タイムスタディ調査)

・入所児童に対し、どのようなケアを、どのくらい(時間)、施設職員が提供しているのかを数量的に把握する目的で実施する調査。

・調査は、児童を日常的にケアする職員が行う2日間タイムスタディ調査(他計式)と、児童を日常的にケアする職員以外が行う7日間タイムスタディ調査(自計式)の二つを実施。

#### 2)入所児童の状態調査(アセスメント調査・突発事象等調査)

・入所児童一人ひとりの心身の状態や突発事象等を把握する目的で実施する調査。

・調査は、調査対象とする児童一人ひとりに対して行うアセスメント調査と、突発事象等調査の二つを実施。

## 2. グループインタビューについて

### ①グループインタビューの内容と目的

・タイムスタディ調査の実施後に、調査時に、調査対象施設において調査員となっており、日常的に児童への直接的なケアに従事している職員を対象とし、調査当時の児童の状態とケア時間・内容についてのグループインタビュー調査を実施。

・グループインタビューの目的は、児童の臨床像とケア時間の多寡との関連性をグループインタビューを通じて明確にすることである。

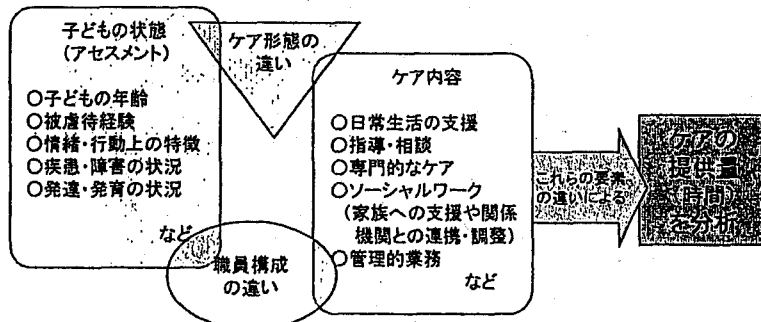
## タイムスタディについて

### タイムスタディとは？

～ケアを提供している現場で、「どういう職員」が、「どのような子どもに」、「どのようなケアを」「どのくらい(時間)」提供しているのかを明らかにすることを目的とした方法

平成20年度社会的養護における施設ケアに関する実態調査(タイムスタディ調査)では、

- 「子どもの状態」の違いによるケア内容別ケア時間の差、傾向
  - 「職員構成」の違いによるケア内容別ケア時間の差、傾向
  - 「ケア形態」の違いによるケア内容別ケア時間の差、傾向
- などについて分析



## タイムスタディ調査結果分析の視点

タイムスタディ調査を通じて、社会的養護施設における現状のケアの提供量(×子どもの年齢・状態)について、定量的な把握を行う

平成19年度  
実態調査結果

子どもの年齢や状態に応じた  
適切なケアの提供量を分析・検討

その他の  
調査・研究

現状の要保護児童にとって  
適切な施設類型のあり方の見直し

人員配置基準の引き上げや  
措置費の算定基準等の見直しを  
含めたケアの改善

## 今回の集計項目(ポイント)

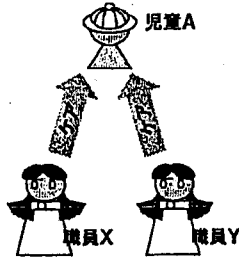
- ④ 子どもの状態の違い・家庭状況の違いによる子ども一人あたりケアの提供量の比較(施設種別ごと)
  - ・子どもの状況:年齢、性別、入所期間、発達状態、情緒・行動上の特徴、被虐待体験の有無、障害の有無 等
  - ・家庭状況:保護者の状況、家庭復帰の見通しや家族への支援状況 等
- ④ 各施設種別による子ども一人あたりケアの提供量の比較
  - ・ケア時間平均
  - ・時間階級区分別児童数
  - ・ケア時間業務分類別
  - ・ケア時間時間帯別 等
- ④ ケア形態、職員配置の手厚さ別による子ども一人あたりケアの提供量の比較
  - ・ケア時間平均
  - ・時間階級区分別児童数
  - ・ケア時間業務分類別
  - ・ケア時間時間帯別 等

※ ケアの負担感(身体的負担感・精神的負担感)については、集計中

## タイムスタディ調査における子ども一人あたりのケア時間(1)

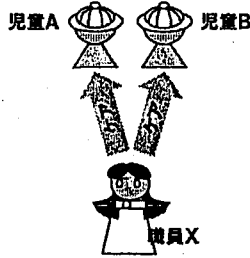
### ■ ケアの方法と子ども一人あたりケア時間算出方法

児童に複数の職員が同時にケアを行った場合



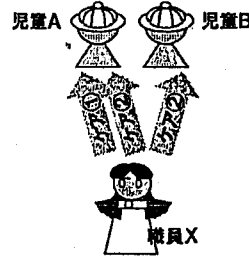
児童Aの一人あたりケア時間  
= 児童Aに対する職員Xのケア時間  
+ 児童Aに対する職員Yのケア時間

複数の児童に職員が同時にケアを行った場合



児童Aの一人あたりケア時間  
= 同時に行った職員Xのケア時間  
÷ 2 (児童数)

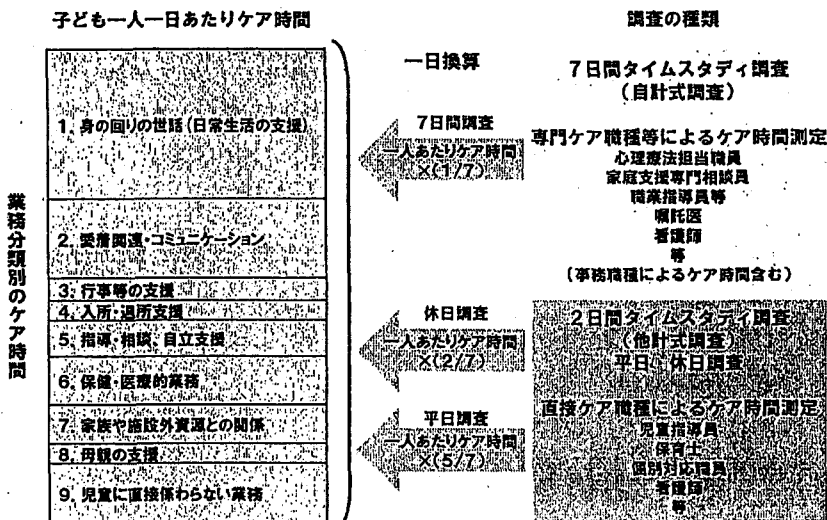
異なる複数のケアを複数の児童に職員が同時にケアを行った場合



児童Aの一人あたりケア時間  
= 児童Aに対するケア①のケア時間  
[ 職員Xのケア時間 ÷ 2 (ケア種) ]  
+ 児童Aに対するケア②のケア時間  
[ 職員Xのケア時間 ÷ 2 (ケア種) ÷ 2 (児童) ]

## タイムスタディ調査における子ども一人あたりのケア時間(2)

### ■ 調査の種類と子ども一人一日あたりケア時間算出方法



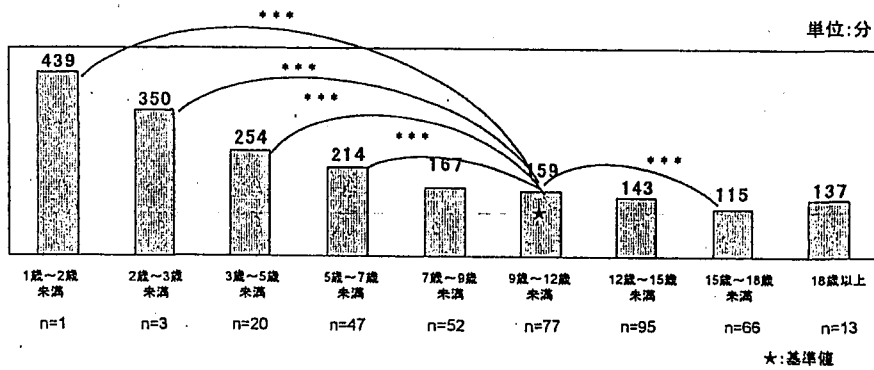
## タイムスタディ調査結果(ポイント)

- 現時点で集計できたタイムスタディ集計結果について、子どもの状態別に、子ども一人あたり総ケア時間/日について、基準値と比べ、統計的に有意差のみられた結果(2集団間に差があるかないかについて、平均値の差の検定(t検定)を用いて統計処理を実施)及び施設種別ごとの概況について、グラフで表記

### 【子どもの状態等編】結果(養護)①

表P1

#### 年齢別子ども一人あたりケア時間/日(児童養護施設)



- ・年齢が高くなるにつれて、子ども一人あたりケア時間が短くなっているが、「18歳以上」でのみ「15歳～18歳未満」より長くなっている。
- ※「1歳～2歳未満」、「2歳～3歳未満」、「3歳～5歳未満」、「5歳～7歳未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1パーセント水準で有意)。
- ※「15歳～18歳未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、ケア時間が短くなっている(1パーセント水準で有意)。

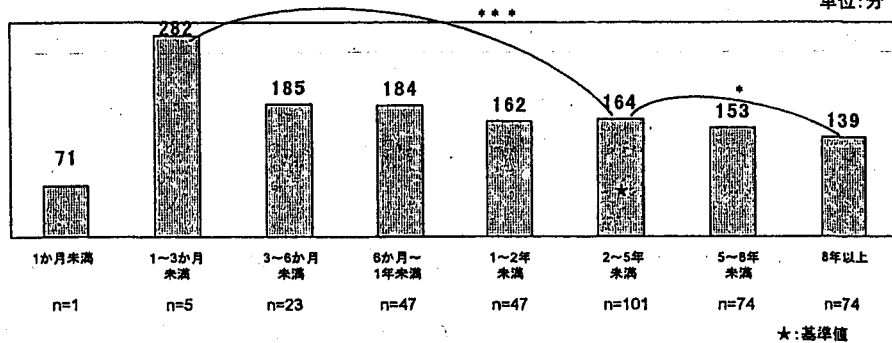
\*\*\* ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)②

表P3

入所期間別子ども一人あたりケア時間／日(児童養護施設)

単位:分



・「1か月未満(n=1)」を除き、入所期間が短いほど(入所後間もないほど)、ケア時間が長い傾向にある。

※入所期間が「1~3か月未満」の方が、「2~5年未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

※「8年以上」の方が、「2~5年未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

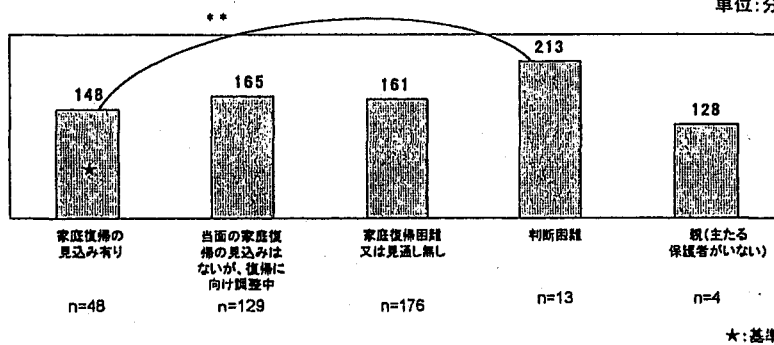
\*\*\* ~ 1%水準で有意 \* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(養護)③

表P4

家庭復帰の見通し状況別子ども一人あたりケア時間／日(児童養護施設)

単位:分



※「判断困難」の方が、「家庭復帰の見込み有り」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

\*\* ~ 5%水準で有意



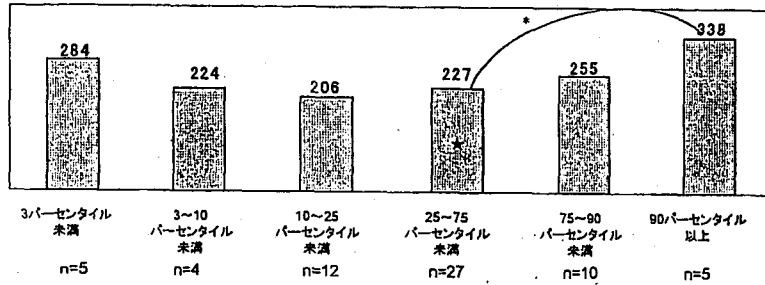
【子どもの状態等編】結果(養護)④

表P7

身体、発育の状態別(体重)子ども一人あたりケア時間/日  
(児童養護施設)

※就学前児童のみ

単位:分



★:基準値

※体重が、「90パーセンタイル以上(とても多い)」の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類(体重)

3パーセンタイル未満	~ かなり少ない
3~10パーセンタイル未満	~ とても少ない
10~25パーセンタイル未満	~ やや少ない
25~75パーセンタイル未満	~ 標準範囲
75~90パーセンタイル未満	~ やや多い
90パーセンタイル以上	~ とても多い

\* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(養護)⑤

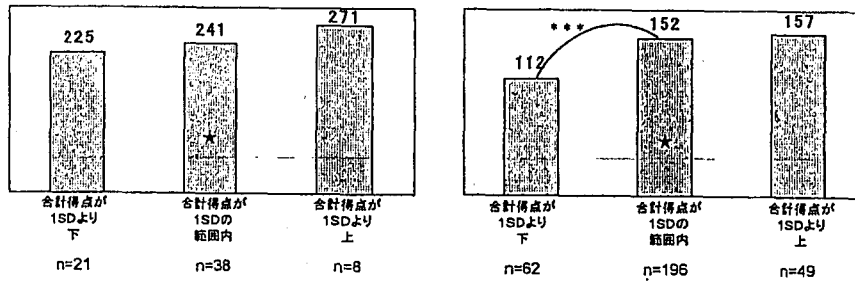
表P11

情緒・行動上の特徴のレベル別子ども一人あたりケア時間/日  
(児童養護施設)

就学前児童

就学後児童

単位:分



★:基準値

・情緒・行動上の特徴の合計点数が少ないほど、子ども一人あたりケア時間が短くなっている。  
※就学後児童では、「1SDより下」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

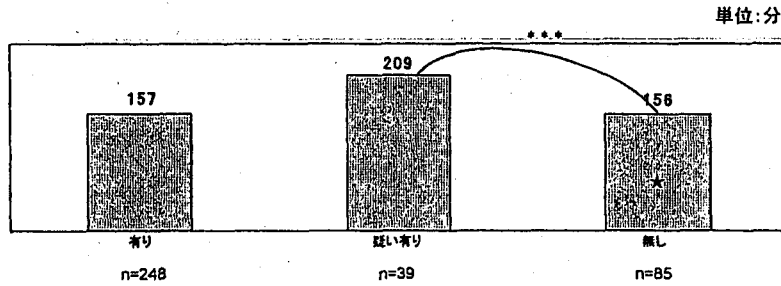
合計得点が1SDより下	~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
合計得点が1SDの範囲内	~ 標準範囲
合計得点が1SDより上	~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

\*\*\* ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)⑥

表P12

被虐待体験の有無別子ども一人あたりケア時間/日  
(児童養護施設)



★:基準値

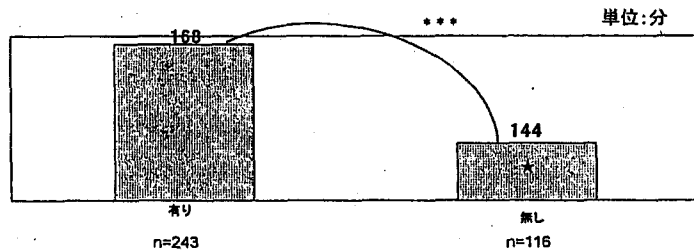
※被虐待体験「疑いあり」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

\*\*\* ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)⑦

表P13

家族への支援の有無別子ども一人あたりケア時間/日  
(児童養護施設)



★:基準値

・家族への支援「有り」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

※家族への支援「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

○家族への支援の有無

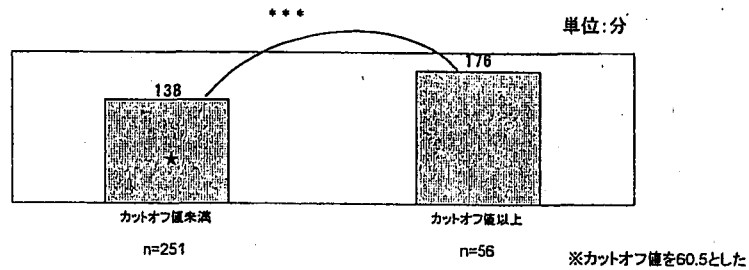
当該児童の家族等に対する面接や家庭訪問など継続的な家族支援の有無

\*\*\* ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)⑧

表P14

「不適切な養育を受けた子どもの行動チェックリスト(就学後児童)」  
の評価レベル別子ども一人あたりケア時間/日(児童養護施設)



★:基準値

・専門的なケアを要する状態にある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。  
※「カットオフ値以上」の方が、「カットオフ値未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている  
(1%水準で有意)。

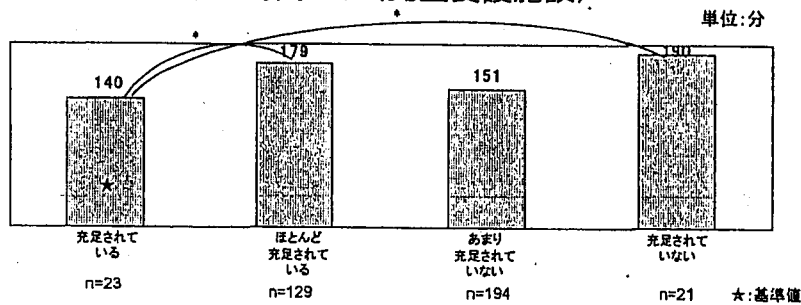
カットオフ値 ~ 専門的なケアを要するかどうかの基準値  
カットオフ値以上 ~ 専門的なケアを要する状態

\*\*\* ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)⑨

表P15

ケアニーズの充足状況に関する評価別子ども一人あたり  
ケア時間/日(児童養護施設)



★:基準値

※ケアニーズが「ほとんど充足されている」の方が、「充足されている」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。  
※ケアニーズが「充足されていない」の方が、「充足されている」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

○ケアニーズの充足状況

当該児童のケアニーズがどの程度充足されているのかについて、現状の職員数、施設状況等といったサービス提供体制上の制約がないものと仮定して施設職員が評価するもの

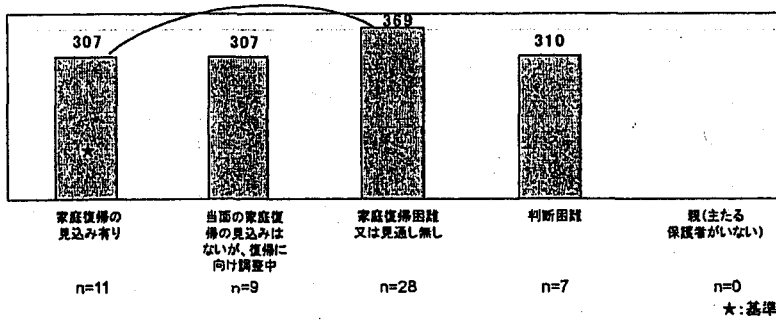
\* ~ 10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(乳児)①

表P20

家庭復帰の見通し状況別子ども一人あたりケア時間/日  
(乳児院)

単位:分



・「家庭復帰困難又は見通し無し」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。  
 ※「家庭復帰困難又は見通し無し」の方が、「家庭復帰の見込み有り」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

\* ~10%水準で有意傾向

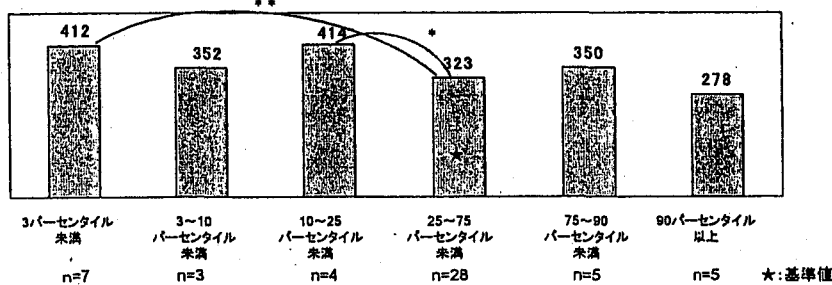
【子どもの状態等編】結果(乳児)②

表P22

出生時体重別子ども一人あたりケア時間/日  
(乳児院)

※就学前児童のみ

単位:分



・出生時体重が標準範囲より少ない方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。  
 ※出生時体重が、「3パーセンタイル未満(かなり少ない)」の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。  
 ※「10~25パーセンタイル未満(やや少ない)」の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類  
 3パーセンタイル未満 ~ かなり少ない  
 3~10パーセンタイル未満 ~ とても少ない  
 10~25パーセンタイル未満 ~ やや少ない  
 25~75パーセンタイル未満 ~ 標準範囲  
 75~90パーセンタイル未満 ~ やや多い  
 90パーセンタイル以上 ~ とても多い

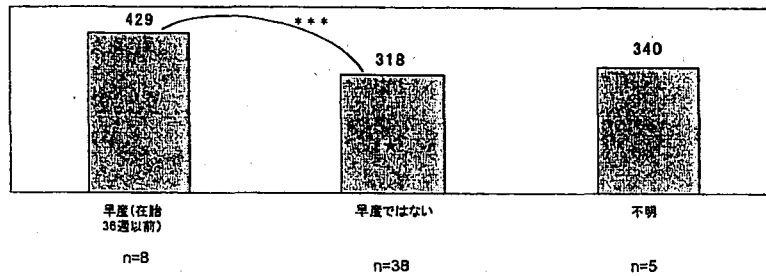
\*\* ~ 5%水準で有意 \* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(乳児)③

表P23

早産(在胎36週未満)の有無別  
子ども一人あたりケア時間/日(乳児院)

単位:分



★:基準値

- ・「早産(在胎36週未満)」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
- ※「早産(在胎36週未満)」の方が、「早産ではない」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

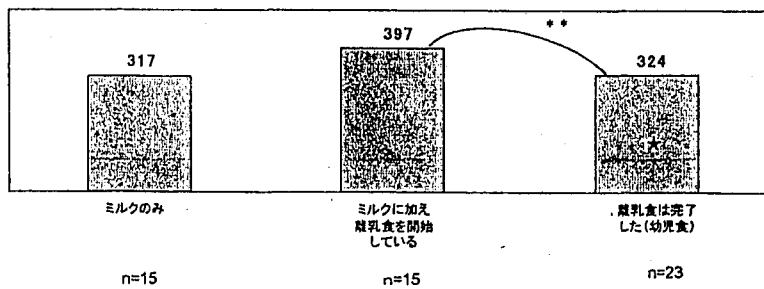
\*\*\* ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(乳児)④

表P25

哺乳・離乳食等の形態別子ども一人あたりケア時間/日  
(乳児院)

単位:分



★:基準値

- ・哺乳・離乳食等の形態が、「ミルクに加え離乳食を開始している」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。
- ※哺乳・離乳食の形態が、「ミルクに加え離乳食を開始している」の方が、「離乳食は完了した(幼児食)」より、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

\*\* ~ 5%水準で有意

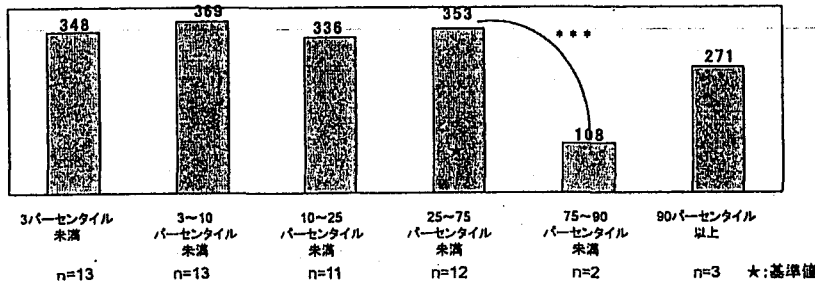
【子どもの状態等編】結果(乳児)⑤

表P28

身体、発育の状態別(身長)子ども一人あたりケア時間/日  
(乳児院)

※就学前児童のみ

単位:分



・身長が、「75~90パーセンタイル未満(やや高い)」が、子ども一人あたりケア時間が最も短くなっている。

※身長が、「75~90パーセンタイル未満(やや高い)」の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類(身長)

- 3パーセンタイル未満 ~ かなり低い
- 3~10パーセンタイル未満 ~ とても低い
- 10~25パーセンタイル未満 ~ やや低い
- 25~75パーセンタイル未満 ~ 標準範囲
- 75~90パーセンタイル未満 ~ やや高い
- 90パーセンタイル以上 ~ とても高い

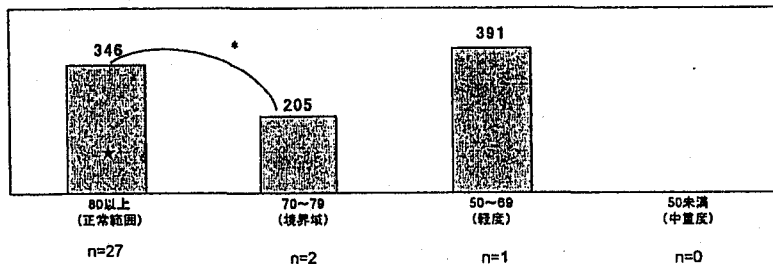
\*\*\* ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(乳児)⑥

表P31

発達指数別子ども一人あたりケア時間/日  
(乳児院)

単位:分



★:基準値

・発達指数が「境界域」の方が、子ども一人あたりケア時間が短くなっている。

※発達指数が「70~79(境界域)」の方が、「80以上(正常範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

\* ~10%水準で有意傾向